

白鳥新道の活用促進と早期整備

■現状と課題

室蘭市を中核とする西胆振地域は、室蘭港の流通機能や高い工業技術の集積、噴火湾沿岸の農漁業、支笏洞爺国立公園や洞爺湖・登別温泉等全国的に有名な観光資源など多様な産業の集積地域であり、北海道経済発展拠点として重要な役割を担っています。

白鳥大橋の開通により、室蘭市に環状道路網が形成され、慢性的な渋滞の解消や広域幹線道路の役割として西胆振における貢献度は非常に大きいものの、祝津側本線から国道36号までの現道の道道室蘭港線では渋滞が解消されておらず、かつ、死傷事故率が高く、その機能は十分に発揮されていない状況にあります。

また、当地域は有珠山の噴火時避難及び復興への対応や災害医療の充実が求められ、さらにはクリーンエネルギーやリサイクルポート、フェリー航路の再開（令和5年10月予定）に向けた物流の利便性向上、加えて近年の超大型クルーズ船の寄港需要の増加等によるインバウンド観光や、令和2年8月にインフラツーリズム魅力倍増プロジェクトの道内唯一のモデル地区に選定された「白鳥大橋インフラツーリズム」による周辺地域と連携した観光の促進の面からも広域的なアクセス強化が必要とされ、地方再生のモデル都市（平成30年3月選定：国土交通省、内閣府）として室蘭市中心部のにぎわい再生、西胆振の豊かな資源や特性を活かした地域の生産性向上、防災・減災対策による国土強靱化及び、安全・安心に暮らせる社会基盤確立の観点からも白鳥大橋の適切なメンテナンスや早期事業化が望まれます。

■要望内容

- 白鳥大橋のストック活用のための効果的な修繕
- 白鳥新道2期区間の早期事業化



■事業効果

- 西胆振・渡島・後志圏からの広域救急搬送の速達性の確保により地域住民の命が守られます
- 災害拠点病院へのアクセスや室蘭港の防災基地機能など防災体制強化及び防災拠点都市形成
- 北海道、東北・関東・甲信越・北陸1都18県のPCB廃棄物処理事業や洋上風力発電関連の工場整備、国際水素エネルギー拠点の形成などの地域プロジェクト展開の推進
- 本市官公庁・むろらん広域センタービルなどの広域拠点施設へのアクセス向上による定住自立圏中心都市機能強化
- 臨海企業製造品や農水産物などの物流利便性向上及び生産性向上
- 主要観光地へのアクセス利便の向上、広域連携による観光振興
- 室蘭市蘭西地区のまちなか再生及びみなとまちづくりと連携した個性ある地域形成